

糸魚川市の生徒指導の事例（心の縦糸と横糸を紡ぐ取組）

大和川小学校 伊野 啓一

生徒指導には、何か問題が起きてから対応する場合と、問題を予防する目的で活動や事業を行う場合とがある。今回報告するのは後者の事例である。

去る 11 月 15 日、糸魚川東中学校区が主催する人権教育総合推進地域事業の成果発表を行った。この事業は、3 年前に文部科学省から委託されたもので、中学校と小学校 4 校が 3 年間の実践研究を行い、その成果を地区民に発表したものである。

当事業は人権教育と銘打っているものの、実際には生徒指導的な色合いが強く、問題を事前に想定し予防する取組が中心であった。

当日紹介された具体的な取組である。

一つ目は、近隣の小学校同士で行う道徳の合同授業である。これを「きりりタイム」と名付けて年間 4 回行ってきた。この取組は、他校の児童と同じ教室で授業を行うので、心の横糸を確かにすることができる。毎回、日常生活において起こりそうな事例を資料として提示し、熱心な意見交換をとおして道徳的価値の共有化を図ってきた。このことが、中学校進学後もよい結果となって表れ、比較的短期間で円滑な人間関係を築くことができるようになった。

二つ目は、小学校 6 年生と中学校 1 年生が共に 3 日間の妙高宿泊体験学習を行う取組である。この取組の特長は、中学校区の小学校 6 年生と中学校 1 年生全員が 3 日間に渡って生活を共にすることである。ここでは、「中 1 ギャップ」と言われる現象を逆手にとり、中学校入学後も安心して登校できる関係づくりが目的である。当中学校区では、これを「中 1 チャンス」と呼んで数年間続けてきた。この取組をとおして、子どもたちは多くの仲間と交流することの楽しさや、共に学ぶことの喜びを感じるようになってきた。そして、先輩後輩という心の縦糸を確かなものにすることができるようになった。

三つ目は糸魚川東中学校の創作劇の発表と、それを資料にした小 6・中 1 の合同道徳である。創作劇の発表は、「深めよう 絆 県民運動～いじめ見逃しゼロスクール～」事業として行い、その直後の授業は、人権教育総合推進地域事業として行ったものである。参加者は一様に、創作劇の完成度の高さに目を見張った。職員が事前に指摘した改善点を生徒が真摯に受け止めて、会場の小学生も感動するような発表を行った。

これらの取組をとおして児童生徒の心の横糸と縦糸が次第に紡がれていくことを実感した。「中学校入学が楽しみです。」とはっきり答えた 6 年生。「すぐに分かり合える仲間ができて楽しい毎日です。」「こわいと思っていた先輩が優しく迎えてくれて嬉しかった。」と笑顔で話す中学校 1 年生。これらの言葉を聞くたびに当事業の手応えを感じる次第である。

このような成果発表は関係校の組織力がものを言う。その点で、会場校である糸魚川東中学校の教職員は縦横無尽の大活躍であった。加えて今回の事業は学校を越えた研究発表であり、会場校と同じくらい小学校職員の意識も高かった。別の見方をすると教職員がまとまるよい機会だった。教職員の気持ちが一つになれば、子どもは必ずまとまる。子どもたちに生活指導だ道徳だと言っても大人がばらばらでは成果は半減である。その意味では、私たち教職員にも大切なことを教えてくれた事業であった。